二宮町小中一貫教育通信

第3号
令和4年6月1日発行
二宮町教育研究所

小中一貫教育の神奈川県の動向

平成 27（2015 年）年９月に、「神奈川県としてめざす小中一貫教育の在り方 最終報告」が示されました。その概要について紹介します。

県内の義務教育をめぐる現状と課題

① 急速な社会の変化について

・県全体の５歳～14 歳の子どもの数は、2040 年には 2010 年と比較して約 30%減少する。
・日本語指導が必要な児童･生徒の数が全国で２番目に多く、使用される母語も多種多様である。

② 学力や学習意欲について

・全国学力・学習状況調査では、県の平均正答率は全国と同程度である。
・「勉強は大切である」と回答する児童･生徒が、小学校から中学校にかけて大きく低下している。

③ 不登校やいじめなどについて

・いじめ、不登校、暴力行為の件数などが小学校６年生から中学校１年生にかけて増加している。
・自尊感情について小･中学校ともに全国平均を下回っている。

④ 地域や家庭の教育力について

・保護者自身が子育てを手探り状態で行わざるを得ない状況も生まれている。

⑤ 学校規模の縮小に伴う、教育環境の充実と教育資源の効果的な活用について

・将来にわたって、教育水準の維持・向上を図るため、教育資源の有効活用の検討が求められる。

県の小中一貫教育校の考え方

(1) 小中一貫教育のとらえ

小・中学校が、同じ教育目標のもと、めざす子ども像を共有し、義務教育９年間を一貫した系統的な教育課程を編成し、それに基づき行う教育

(2) 神奈川県としてめざす小中一貫教育校のすがた

神奈川県の小中一貫教育校では、次のような子どもたちが育まれることをめざしている。

・９年間の教育活動を通して他者を尊重し、思いやる力を育んでいる。
・９年間一貫した系統的な教育課程のもと、学習習慣の確立及び確かな学力の育成を通して、自立した一人の人間として社会をたくましく生き抜く力を育んでいる。
・地域との様々な関わりをもつ９年間の教育活動を通して社会の中で自己が成長していることを実感し、将来的に社会に貢献する力を育んでいる。
・９年間の教育活動を通して個々の良さを発揮することにより自己肯定感を育んでいる。
・インクルーシブな視点での教育実践により、多様な仲間たちとの学び合いや高め合いを通して、主体的に共生社会を創る力を育んでいる。

(3) 小中一貫教育校を導入したときの効果

① 急速な社会の変化について
・集団の規模が確保され、一定規模の集団を前提とした教育活動が保障されると考えられる。

② 学力や学習意欲について
・中学校の教職員が小学校で授業を行うことにより、小学生はより専門性に根ざした授業を受けることが可能となり、学力や学習意欲の向上が期待できる。

③ 不登校やいじめなどについて
・小学校の児童にとっては、日常的に中学校の生徒や教職員と共に学び共に生活することにより、中学校での生活に対する不安を感じることが少なくなることが期待できる。

④ 地域や家庭の教育力について
・９年間のつながりの中で保護者同士の関係も広がり、例えば、中学生の保護者が小学生の保護者の相談に関わるなど、悩みの共有や解決が図られやすくなることが期待できる。

⑤ 学校規模の縮小に伴う、教育環境の充実と教育資源の効果的な活用について
・小･中学校が一体的な組織となることで、校務分掌が効率的に行われることなど、教育資源の効果的な活用が期待できる。